

和光市協働事業実績報告書【平成29年度実施事業】

事業名	お家ごはん塾
日 時	平成30年5月17日（木）10:00～11:45
場 所	和光市役所6階 602 会議室
出席者	事業実施団体：山口、仙台（NPO 法人ぽけっとステーション） 担当課：牧田（健康保険医療課） 中川、渡邊（市民活動推進課）

1. 事業概要

事業名	お家ごはん塾
-----	--------

事業主体	事業実施団体	行政（担当課）
	NPO 法人ぽけっとステーション	健康保険医療課

事業費	予算額	決算額
	300,000 円	316,882 円

事業内容 （実績）	<地域課題と市民のニーズ> 生活困窮や知識の不足などで、通常の家庭料理が作れない世帯では、必要な栄養が十分に摂れていないと考えられる。成長期の子どもはもちろん、親や家族どの世代においても、食習慣・食生活の乱れによる生活習慣病のリスクが高くなる傾向が課題としてある。このことから、健康的に生活をするためには、適切な食習慣・食生活について学ぶ事が、今後役立てられると考え、この事業の提案を行った。 <問題解決に向けた内容> この事業は単なる食事提供によるものではなく、健康的な食事について参加者自身が実践できる方法を学び、理解を深め、生活の中で継続的に役立てられる事を目的とし計画を立てた。 食に問題を抱えている市民の対象者選出は、各担当課と協議しながら緊急性を考慮しつつ参加意欲のある方々へ声かけをし、集団において食事についての講義と実習を行った。大人は初回に、アセスメントを実施し個々の課題を見つけ、評価とした。子どものアセスメントは、料理への意欲関心の向上を評価とした。
--------------	---

	対象者は、子どもと大人の回に分け、それぞれ3回ずつ実施し、家族の見学や参加も可能とした。子どもの回では、きょうだいの参加もあり、調理を一緒にし、食事をした。大人の回では、保育が必要な幼児を連れての参加者がおり、子育ての相談も一緒に行った。 炊飯といった調理の基本から、材料を無駄なく使い回す工夫、経済的観点で材料購入する考え方、安価でも栄養のバランスを取るための食品選択や工夫の仕方について、講義と実習を行った。 栄養のバランスを考える事はもちろん、自分が作りたい料理を作る（作る喜び）、材料を無駄なく使う（計画購入）、一緒に食べるなど（食べる喜び）など、食を通じて健康意識と食の関心が高まるきっかけを作ることができた。 <事業を終えて> 参加した対象者には、経済的な要因、知識不足や調理経験不足の要因、家族関係の要因、精神的な要因など各々違う課題があった。複数の要因がある人も、食と栄養についての適切な考え方を知る事により、改善の糸口をつかむことができるようになって感じた。料理を楽しんでいるようになることは、健康意識を高め、生活習慣病の予防に繋がっていくことの一步にもなると考えられる。
--	--

2. 事業結果

	当初	実績
事業 スケジュール	4月～6月 対象者選出 7月～12月 事業開始 (2グループ×3回) 各グループ6名定員 1月～3月 事業成果振り返り 報告書作成	10月 各担当課が集まり、対象者選出 11月 実施日程の調整 12月 事業開始 【子どもの回】 木曜日 12/14、1/11、1/25 対象者:7名 見学者:1名(保護者) 【大人の回】 土曜日 12/16、1/13、1/27 対象者:4名 同伴者:2名(幼児) 参加費:子ども100円、 大人200円 3月 報告書作成

	当初	実績
事業成果 指標	・個別アセスメントを実施し、目標の設定と評価を行う。 ・追跡調査については、各担当課との連携を取りながら行う。 ・今回の対象者選出から外れた人についてのフォローを考慮していく。	・個別アセスメントについては、アンケート形式の物を用意し、記入してもらった。 ・参加したことにより、調理回数、意欲、意識に変化があったか、聞き取りと合わせ実施した。 ・ひとり親家庭、生活困窮など課題を持つ対象者に対し、気軽に参加できる料理教室という形で、参加を呼び掛けた。 ・参加者の中から事業終了後、栄養マネジメント(訪問)の依頼を受けた。

事業成果 指標 (担当課)	- 調理工程について年齢に合わせた目標をたて、それぞれ目標を達成する。 (個人目標の達成) - 事業中自宅でも行う様、宿題をだし、実際に健康的な献立作成や調理ができる。 - 事業後の生活の変化を評価する。	当初の成果指標を達成
コメント 【担当課】	- アセスメント、アンケートを行い、事前事後の意欲の評価を確認できている。 - アンケート等を活用し、個別の対応ができている。 - 家庭においてもより実践しやすいプログラムになっている。 - 少人数でのグループかつスタッフ体制が良かったので、手厚い対応ができている。	

	団体	担当課
想定以上の事業成果があったか	はい	はい

「はい」と回答した場合、どのような事業成果があったかをご記入ください。

団 体	子どもの回では、調理する事が楽しい事という考えを持つようになったり、自宅での調理回数が増えるなど、栄養のバランスについても意識を持つようになったとの回答や発言があった。 大人の回では、同伴で来た子どもの様子を観察しながら、偏食への対応の仕方や、忙しい家事と育児の両立をしながらできる事が何か伝え、健康的な生活を続けるための食事の大切さを感じてもらう事ができた。
担 当 課	待ち時間や実習を通して、食に関する相談だけでなく、生活リズムや子育てに関する相談にも応じ、参加者の生活背景を踏まえてのアドバイスができていた。 事業終了後も「まちかど健康相談室」相談先として利用できることへの周知できているので、今後、継続した相談や支援が期待できる。

3. 協働の結果

(1) プロセスの積み重ね

団体	担当課
----	-----

- ①事業進捗状況の報告を行っていましたか。 はい はい
- ②問題が生じたときに、すぐに話し合えましたか。 はい はい

(2) 事業の広がり

協働事業の実施により、新しいつながりや連携が構築された場合、その内容を具体的に記入し、このつながりや連携を今後の協働事業の展開にどのように活かそうと考えているかをご記入ください。

(新しいつながりや連携の構築がなかった場合、この欄への記入は不要です。)

団体	【具体的内容】 参加者の課題発見を始めに、背景にある家族の課題も合わせて解決するために、各担当課との繋がりを深めていける。 【つながりや連携の活用】 ライフサイクルの過程で、様々な課題があっても、各担当課が引継ぎながら追跡をしていけるために、関わりを持つ事が重要になってくる。
担当課	【具体的内容】 対象者の選定において、関係各課・団体と事業目的等の共有ができた。 【つながりや連携の活用】 ・まちかど健康相談室としての相談・支援機能を活用する。 ・今後の食育推進事業として検討する

(3) 市民満足度の向上

事業の受益者の満足を得ることができましたか。	団体	担当課
	はい	はい

「はい」と答えた方は、受益者の満足度を調べるためにどのようなことをしたかを、「いいえ」と答えた方は、その理由を下欄にご記入ください。

●アンケートの実施と感想などの発言記録を取った。

子どもの回では、「学校の家庭科くらいしか料理を作ったことがない」、「ホットケーキ以外に、おかずになるものが作れた」、「料理をしたことはなかったけれど、楽しいと思った」などの感想があった。

大人の回では、「買った物を無駄にする事があるが、同じ材料でもいろいろな使い方ができる事を知れてよかった」、「家族のために、少しずつ野菜を増やしていこうと思った」、「電子レンジを使い、野菜を食べる事が増えた」などの感想の他、子どもの偏食、育児に関する相談など個別に話す機会が取れて良かったとの声を聞く事が出来た。

担当課	事業に参加し、スタッフや参加者とのやり取りや感想を聞くことで、満足度の確認ができた。
-----	--

(4) 協働基本原則

「和光市協働指針」では、市民と市が協働を円滑に進めていくための以下の6つの基本原則を定め、これをお互いが理解し、常に協働基本原則に則って取り組んでいくこととしています。これらに則って事業に取り組めましたか。

	団体	担当課
①「相互理解の原則」	はい	はい
②「目的・評価共有の原則」	はい	はい
③「自立の原則」	はい	はい
④「対等の原則」	はい	はい
⑤「役割分担明確化の原則」	はい	はい
⑥「情報公開の原則」	はい	はい

■⑤役割分担について

団体	【当初】 ・団体は参加希望を募るためのアンケートの作成、講義・実習に関する準備 ・市は対象者の選出と募集、対象者の情報提供、実施場所（まちかど健康相談室）の使用許可
	【実績】 ・当初と同じ
担当課	【当初】 ①会場・場所の確保 ②アンケートの配布・回収 ③対象市民の選出と募集 ④市関係部署との連絡及び調整
	【実績】 ①③④当初と同じ ②はアンケートではなく申込書として実施

役割分担で良かった点や改善点をご記入ください。

団体	参加者の欠席については、担当から連絡をもらうことでフォローがしやすかった。 (欠席理由については、冬の時期だったため流行性感染症による不調や受験時期が重なっていた)
担当課	対象者の選出(複数課の調整)に時間がかかってしまい、スケジュールが遅れてしまった。スケジュール感をもった対応が必要であった。

■⑥情報公開について

団体	【PR事例】 個人のプライバシーの観点から、PR活動は行わなかった。
担当課	対象者の個別性が高いため、公には募集せず、関係課、団体からの声かけで対象者を募った。

(5) 協働の成果

協働することで、団体、市、市民それぞれにどのようなメリットがありましたか。

団体	【団体のメリット】 ・講義・実習を通じて、食の大切さを伝え、健康観や健康意識への働きかけができる機会を持つことができた。
	【市のメリット】 ・支援対象者に対し、問題解決の1つとして役立てる。
	【市民のメリット】 ・料理を通じて、栄養・調理の知識を知り、生活の中に取り入れられる事を見つける事が出来る。
担当課	【市のメリット】 ・市単独(対象者の背景等)では実施が難しい、食の自立支援に繋がる事業であった。

事業を実施したことで、改善が必要だと思われること、思ったとおりできたことは

何ですか。

団体	・3回では、伝えられる事が限定されてしまい少ないと感じた（食習慣の改善には、ある程度の期間も必要になり、1クール4～5回くらいが良いと思った）。 ・大人の回では同伴者（幼児）が多い場合、保育の為にスタッフの人員がとられてしまうため、人員に対する予算が不足。 ・子どもの回では定員6名の場合、参加者の調理レベル、年齢に合わせ対応していく為、予定していたスタッフの人員では不足だった。（作業中のケガ予防の対応としては十分でなく、人員を増やした他にも、ボランティアとして入ってもらい対応した） <できた事> ・実施時間帯は、参加者によって希望時間は異なるが、良かったと思う（子どもの回では、夕食を作る時間帯に実施し、孤食が解消される事も期待できる）。 ・少ない回数でも、料理を楽しいと感じてもらうことができ、意欲の向上につなげる事ができた。
担当課	大人の参加者が、定員に満たなかった。早めに対応し選定に時間をかけられるとよかった。

(6) その他

上記以外で、協働事業の成果として特にアピールしたいものがあれば、ご記入ください。また、それが今後の協働事業の発展にどのように貢献すると考えているかをご記入ください。（特にアピールしたいものがなければ、この欄への記入は不要です。）

団体	【成果のアピール】 実施したまちかど健康相談室（西大和団地内）の場所が、市内の方が参加しやすい立地であり、栄養士に気軽に相談できる場所として、参加者に伝える事ができた。今後も、広く利用してもらい、市民への健康についての啓蒙活動が、今以上に行っていきたいと考える。 【事業の発展への貢献】 健康や生活についての様々な課題について、行政と力を合わせ取り組んでいける。
担当課	・事業に参加してみて、プログラム、参加者の反応ともよく、事業終了後も継続して、実践できることが期待できる内容であった。 ・アットホームな雰囲気、スタッフと参加者とのコミュニケーションもよく信頼関係が築けていた。 ・対象者の選定には、担当課（健康保険医療課）以外の関係課からの協力が必要であり、依頼や調整に時間がかかってしまい、スケジュールがずれてしまった。